

「春蕾計画」により夢を実現する中国の女兒

ビ・ジュンメイ（中国）

改革開放から 30 年が経ち、急速に経済発展を遂げた中国は、今や世界第 2 位の経済大国です。一方、国民 1 人あたりの GDP は世界第 90 位であり、中国は依然として厳しい発展途上にあります。現在も 1 億もの人びとは未だ貧困層で生活をしています。特に農山村地域では伝統的な風土の習慣が重視され、児童の中退や女兒の非識字問題などが数多く残っています。こうした問題を打開するために 1989 年に中国児童少年基金会によってつくられたのが「春蕾計画」です。

1994 年に内モンゴル自治区婦女連合会で「春蕾計画」が施行されてから、2014 年で 20 年目の節目になります。この 20 年の間に女兒支援が強化された結果、46 カ所の春蕾学校が建てられ、116 の春蕾女兒クラスが作られました。実施の過程では、内モンゴル自治区婦女連合会の下にある各婦女連合会が、中途退学の女兒に重点を置き、女兒の教育レベルが上がるように「国際婦人デー」や「国際児童デー」などの機会を利用して、「春蕾計画」を宣伝しました。その結果「春蕾計画」は社会各界からさらに支持されています。個人レベルでも、内モンゴル自治区婦女連合会のリーダー、幹部職員たちが 1997 年から 8 年間に 84,300 元のお金を寄付し、約 260 人もの女兒および 50 名の中途退学の学生を扶助しました。

香港やマカオなどでも「春蕾計画」は支持されています。ある日本の友人には 160 万元を寄付していただき、内モンゴル自治区内の 5 県に、計 8 カ所の春蕾学校を建設しました。ある香港出身の方には 120 万元を寄付していただき、北京と香港で春蕾女兒の参加を募ってサマーキャンプを開催し、その経験は子どもたちにとってとても有意義なものになりました。香港の「愛心力量」という組織は 34 万香港ドルで内モンゴル自治区の中、西、東地方の県に 3



カ所の春蕾学校を建設しました。香港大学のある教授には 2006 年から 6 年間にわたり、合わせて約 132 万元を寄付していただきました。これにより 138 名の貧困女子学生が扶助され、そのうち 17 名が無事卒業し、社会に出ました。さらに 8 名の学生が中学校と高校卒業後社会人なって仕事も順調に進んでいます。また、26 人は進学し大学、専門学校に行っています。87 人は小学校や高校の教育を受けています。

「春蕾計画」が内モンゴル自治区で施行されてから約 20 年が経過し、卒業した春蕾女兒は大学などに進学しさらに勉学を深めたり、公務員、教師、先生として、精一杯社会に恩返しをしています。「春蕾計画」により数万の女兒が学校に行けるようになり、教育を受ける権利の保障も得ました。「春蕾計画」により教育を受けた女兒たちが、今後中国の発展に寄

与していくことでしょう。